

令和元年度
大分川・大野川学識者懇談会
〔大分川ダム建設事業進捗報告〕

令和元年8月5日
国土交通省九州地方整備局
大分川ダム工事事務所

大分川(ななせ)ダム建設の進捗状況

R1.5.15 撮影

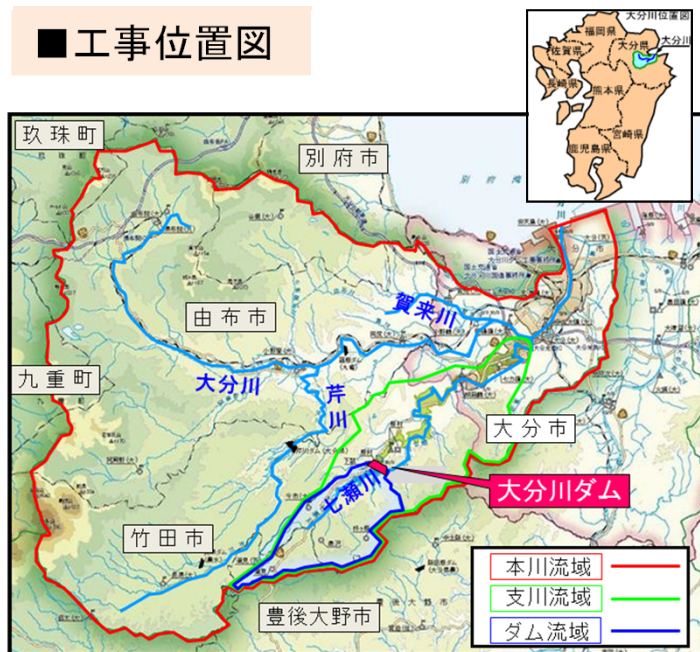


大分川ダム工事事務所

大分川ダム建設事業の目的

- ・大分川ダムは、平成29年5月にダム本体盛立が完了し、平成30年2月より試験湛水を開始。
- ・引き続き、令和元年度の完成に向け、着実に事業を実施する。

■工事位置図



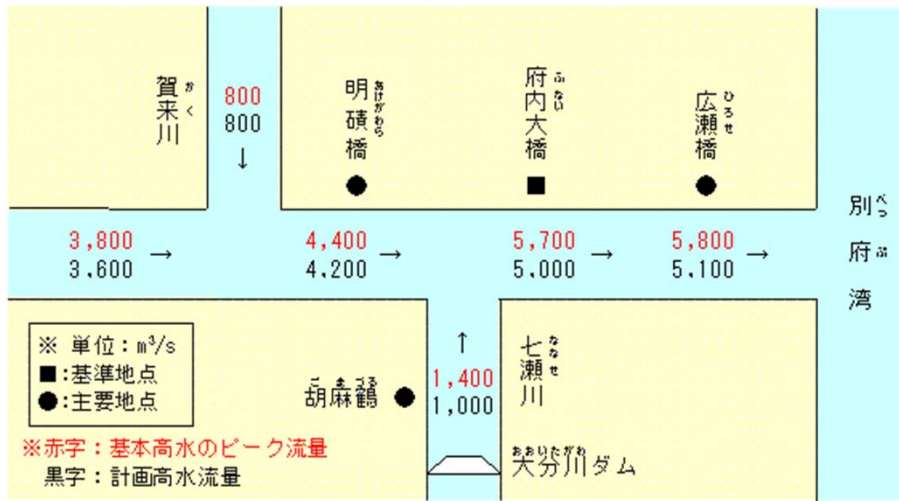
- 場所 大分県大分市（大分川水系七瀬川）
- 目的 洪水調節（大分川、七瀬川の洪水防御）
流水の正常な機能の維持
水道用水の供給（大分市：最大0.405m³/s）
- 諸元 ロックフィルダム
高さ91.6m、総貯水容量2,400万m³
- 工期 昭和62年度～平成31年度
- 総事業費及び進捗状況

総事業費	約1,036億円
平成29年度末までの執行見込額	938.3億円
平成30年度当初予算額	55.2億円
本体工事、付替道路工事等	
平成31年度 実施計画額	42.5億円

■大分川ダムの完成イメージ図



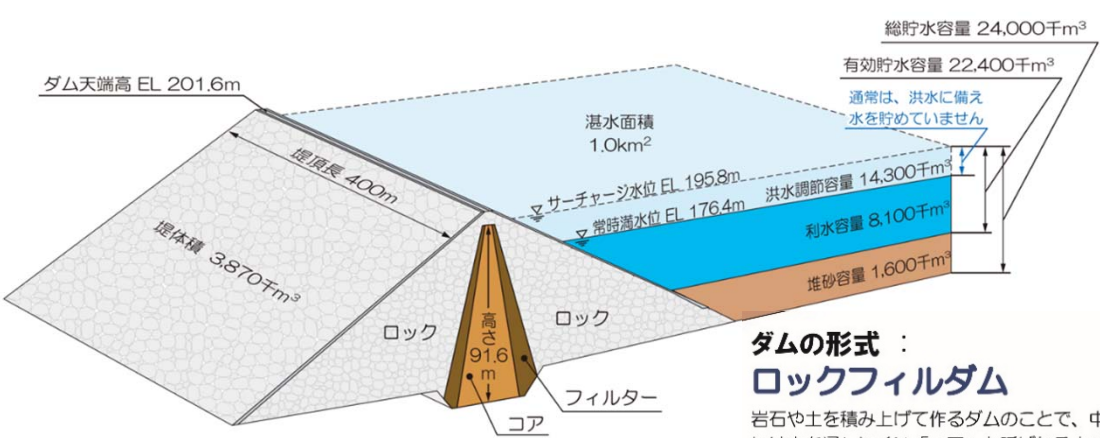
○ダム地点カット量 610m³/s → 180m³/s (-430m³/s)



[大分川計画流量配分図 m³/s]

■大分川ダムの諸元

大分市の水需要を支え、いのちを守る九州直轄初のロックフィルダム



ダムの形式： ロックフィルダム

岩石や土を積み上げて作るダムのことです。中心には水を通しにくい「コア」と呼ばれる土の壁があります。

大分川ダム建設事業の経緯

- 昭和45年 4月 予備調査着手
- 昭和53年 4月 実施計画調査着手
- 昭和62年 4月 建設事業着手
- 昭和63年12月 大分川ダム基本計画の告示
- 平成元年 1月 水源地域特別対策措置法に基づくダム指定
- 平成12年 2月 大分川ダム損失補償基準協定書調印
- 平成16年12月 漁業に関する損失補償契約
- 平成22年 9月 ダム事業の検証に係る検討大臣指示
- 平成24年 7月 ダム検証に係る本省の事業継続決定
- 平成25年 1月 本体関連工事着手（ダムサイト左岸上流掘削工事）
- 平成25年 9月 大分川ダム建設（一期）工事
- 平成26年 2月 大分川ダム本体建設工事起工式
- 平成27年 3月 ダム本体基礎掘削完了
- 平成27年 9月 ダム本体盛立開始
- 平成28年 2月 大分川ダム本体建設工事定礎式
- 平成29年 5月 ダム本体盛立完了
- 平成30年 2月 試験湛水開始

• 令和元年度 試験湛水完了予定 完成

大分川ダム建設事業の進捗状況

◇進捗状況

※ - 用地取得 -- 付替工事 -- 本体関連

R1.06時点

補償基準	H12.2 野津原町補償基準妥結（地権者との用地補償等に係る基準は全て妥結）			
用地取得 (156ha)	100% (156ha)			
家屋移転 (49戸)	100% (49戸)			
付替国道 (1.9km)	100% (1.9km)			
付替市道、付替林道 (6.4km)	97% (6.2km)			
ダム本体及び関連工事	仮排水トンネル (H20.11完成)	基礎掘削 100%	本体盛立 100%	試験湛水 75%

■大分川ダムの状況



大分川ダムの今年度事業内容



※赤字が今年度施工の主な事業内容

◇ ダム周辺整備関連と分担

事業名：大分川ダム

(完成後は「ななせダム」、「のつはる湖」となる予定)

材料山 (コア山) 跡地 多目的広場

(仮称) 天空広場のつはる
通称: Plaza cielo (プラザ・シエロ 意味: 天空広場)

(仮称) 道の駅のつはる
通称: ILlargo (イル・ラーゴ 意味: 湖)

国道エリア 交流拠点 (道の駅)

交流拠点 (道の駅) (イメージ図)



整備箇所	国交省	大分県	大分市
道の駅	基盤整備 (排水・法面処理)	駐車場 情報表示板	上物 駐車場
材料山跡地	基盤整備 (排水・法面処理)	—	上物 駐車場

大分川ダム水源地域ビジョンの策定

・水源地域ビジョンとは

ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために、水源地域の自治体、住民等がダム事業者等と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画である。

・対象ダム

国土交通省所管の直轄ダム、独立行政法人 水資源機構のダム

水源地域ビジョンの策定に向けた組織体制

○ななせダム水源地域ビジョン策定委員会

目的：水源地域の振興や活性化の推進を図る

事務局：市、県、国

構成員：大分市長、県土木建築部長、県中部振興局長、大分河川国道事務所長、大分川ダム工事事務所長

報告

○ななせダム水源地域ビジョン策定協議会

目的：水源地域ビジョンの取り組み状況の把握、共有、新たな取り組み等の協議を行う。

事務局：市、県、国

構成員：市、国、県、自治会連合会、野津原商工会、補償対策員委員会、漁協組合、道の駅、農事組合、市民団体、カヌー協会、トライアスロン連合、ボート協会等

水源地域ビジョンの策定に向けた今後の予定

水源地域ビジョン策定委員会

水源地域ビジョン策定協議会

平成30年度

12月18日

第1回 委員会
設立趣旨、規約、目的、今後のスケジュール

報告

1月28日

第1回 協議会
設立趣旨、規約、目的、今後のスケジュール
現状の共有、課題の抽出

令和元年度

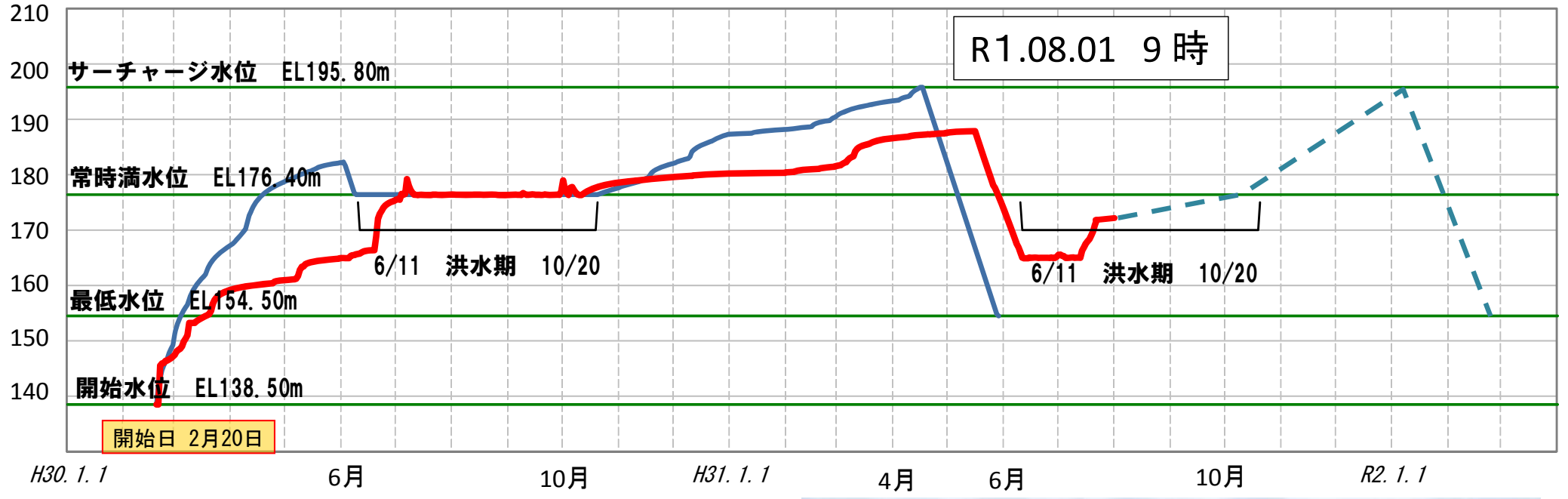
第2～5回程度 委員会、協議会
行動計画とりまとめ、ビジョンとりまとめ

ビジョン承認(委員会)

水源地域ビジョン策定

3月下旬

試験湛水 貯留状況 令和元年8月



貯留水位 EL 172.40 m 常時満水位まで水位上昇中
 ダム流入量 1.40m³/s, 下流へ 0.49m³/s

◇試験湛水 貯留状況(H30. 2月20日開始～)

7月3日20時22分に常時満水176.4mに到達

7月4日撮影



7月4日撮影

ダム堤体より上流を望む



第2展望所よりダム堤体を望む



年 月 日: 令和元年 5月16日(木)
貯 水 位: 187.86 m (9:00時点)

◇試験湛水期間におけるダム堤体、周辺斜面の観測・巡視の様子



撮影日：H30.03.31



貯水池巡視の様子



堤体巡視の様子



堤体巡視の様子

◇試験湛水のため常用洪水吐のゲートの撤去&設置(出水期はゲート撤去)

下の赤線部が非常用洪水吐約150m



常用洪水吐(下流から望む)4.8m×3.1m



大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果（平成30年台風24号）

- 台風24号に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、7月豪雨の192mmを大幅に上回る318mm(9月28日22時～30日16時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、7月豪雨の約2倍となる最大332.5万m³(25mプール約9236杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は避難判断水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。

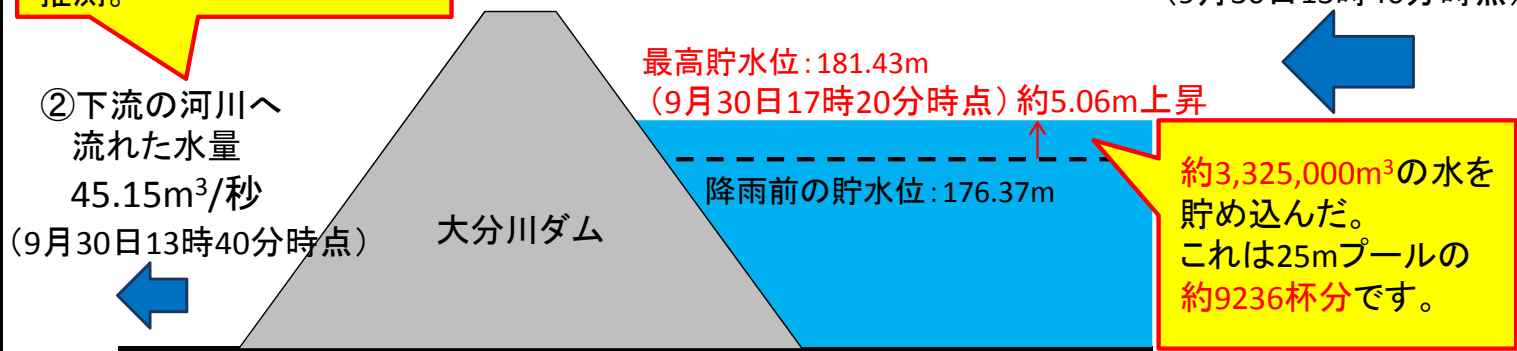


◆大分川ダムの状況

約242.2m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ流れた水量
45.15m³/秒
(9月30日13時40分時点)

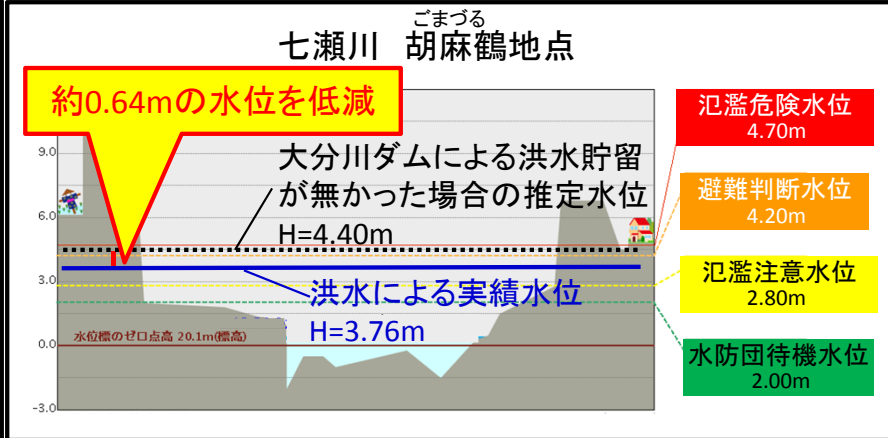
①大分川ダムへ流れてきた水量
287.35m³/秒
(9月30日13時40分時点)



今市雨量観測所(累加雨量) : 318mm(9/28 22時～9/30 16時まで)



大分川流域図



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。12